

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	ゲストハウスを活用した生活困窮者支援事業
事業名(副) ※任意	交流機能を用いた社会的孤立へのアプローチ

入力数 主 20字 副 20字

実行団体名	株式会社PLOW
資金分配団体名	認定NPO法人北海道NPOファンド

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
✓ 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	✓ ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	✓ ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	✓ ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
✓ 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	✓ ④働くことが困難な人への支援
	✓ ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
✓ 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	⑥地域の働く場づくりの支援
	✓ ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	
------------------------	--

入力数 0字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_3.すべての人に健康と福祉を
_8.働きがいも経済成長も
_11.住み続けられるまちづくりを

実施時期	2020年10月 ~ 2021年9月	事業対象地域	特定地域（北海道札幌市・江別市）	事業対象者： （事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む）	ホームレス状態にある生活困窮者	事業対象者人数	18人
------	--------------------	--------	------------------	---------------------------------------	-----------------	---------	-----

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
当団体が運営する「UNTAPPED HOSTEL」は、「ゲストハウスは、地域の内外を結びつけるハブとしての機能を持つ」との想いのもと、2014年から多くの人々を宿泊施設として受け入れるとともに、宿泊の場に留まらない「共有の場」として、地域の人々にも開かれたイベント等も開催、場としての可能性を拡張してきた。人と人、人と場がつながることで生まれる関係性を育むことが、当団体の社会的役割であると考えている。
(2)申請団体の概要・事業内容等
当団体は、2014年に札幌市北区で開業した宿泊施設「UNTAPPED HOSTEL」を運営している。ゲストハウスの宿泊事業と並行して、地域と旅人を結ぶハブ機能を果たすべく、トークイベント・映画上映会・餅つき大会など、多くのイベントや学びの機会を提供してきた。現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で、仕事と家を持った人たちのためのシェルターとして、2020年5月1日より生活困窮者を受け入れている。

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
ゲストハウスを活用したホームレス状態にある生活困窮者支援に係る事業について、それが解決を目指す課題は以下の2点である。
(1) 新型コロナウイルス感染拡大によるホームレスの増加 (2) ホームレスが抱える社会的孤立問題
まず(1)について述べる。現在、新型コロナウイルスの影響によってホームレスは増加している。支援を行う一般社団法人札幌一時生活支援協議会によれば、同団体がうける相談件数は今年度に入ってから毎月100件前後にのぼり、これは前年度同時期と比較すると約2倍にあたる。臨時的な対応は行政によってもすでになされているが、さらなる拡充が望ましい状況である。
次に(2)について述べる。社会的孤立の問題はさまざまに語られてきたが、ホームレスにおいても深刻である。例えば、シェルター利用に至る者の大部分を占める住み込みの派遣労働者は、職と住居が結び付けられているために失職しても生活保護等を活用する隙がなく、住居を失いやすい。居住地を転々とするので継続的な人間関係を持たないことが多く、さらに親族とも疎遠である場合には困窮しても頼るあてはない。支援団体は社会的孤立の問題に取り組んできたが、それも十分とは言えない状況にある。
ゲストハウスをシェルターとして活用することで、(1)にあるような喫緊のニーズを満たし、さらにゲストハウスは従来のシェルターと異なって交流することを前提として作られた空間であるため、(2)で示した社会的孤立の問題に対してコロナ禍を機会とした新しいアプローチを試みることができる。
懸念される事項は感染リスクである。しかし、むしろウイルスによる不安がひろがるいま、つながりを回復していくことこそ重要だとも考えられるのではないだろうか。リスクの低減はつながりを忌避し孤立を推し進めることによってではなく、消毒やソーシャル・ディスタンス等の徹底によって行いたい。

入力数 (1) 199字 (2) 199字

入力数 795字

III.事業内容

(1)事業の概要
<p>本事業は、感染症災害によるホームレスの増加に対応するための居住確保を進めると同時に、ゲストハウスの交流機能を活かして、社会的孤立の問題に対する新しいアプローチを実施・普及する。さらには、ホームレス状態の生活困窮者が多く存在する札幌市とは異なり、一棟借上等による大型シェルター・支援付き住宅の整備が難しい地域において、ゲストハウスを活用したホームレス状態にある生活困窮者支援のノウハウ移転を試みる。今事業期間においては、札幌市のとなりに位置する江別市で、ゲストハウス「ゲニウス・ロキが旅をした」を運営する合同会社ロキに対し技術指導をすることで、当団体の取り組みの横展開を図ろうとするものである。</p>

入力数 296 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<p>○UNTAPPED HOSTEL：交流機能の強化・支援付き住宅の供用により、ホームレス状態の生活困窮者に対する居住支援の拡充、社会的孤立に対する新しいアプローチについての有意性を明らかにし、新規参入するゲストハウスを1件増加させる。</p> <p>○ゲニウス・ロキが旅をした：シェルターのない地域に、ゲストハウスを活用したシェルター運営のノウハウ移転。本事業終了後の宿泊費負担に関しては、行政による制度化を目指す。</p>

入力数 200 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
シェルターの交流機能が強化される（UNTAPPED HOSTEL）	参加者数	実際の参加者をカウントする	90名	2021年9月
支援付き住宅の供用を開始し、入居者への生活支援が実施される（UNTAPPED HOSTEL）	入居者数	実際の入居者をカウントする	12名	2021年9月
シェルターの運用が開始し、一時居住支援が実施される（ゲニウス・ロキが旅をした）	入居者数	実際の入居者をカウントする	6名	2021年9月
ホームレス状態にある生活困窮者と地域や旅人との交流が生まれる（ゲニウス・ロキが旅をした）	参加者数	実際の参加者をカウントする	90名	2021年9月
生活困窮者への能力開発の機会が提供される（ゲニウス・ロキが旅をした）	研修回数	研修の回数をカウントする	6回	2021年9月

(4)活動	時期
ゲストハウスを活用したホームレス状態にある生活困窮者への一時居住支援	2020年10月～2021年9月
ホームレス状態にある生活困窮者と地域や旅人との交流活動	2020年10月～2021年9月
支援付き住宅の供用開始による生活支援	2021年4月～2021年9月
生活困窮者への能力開発	2020年10月～2021年9月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<p>株式会社PLOWを実施主体とし、事業運営は協議会を発足させて推進する。協議会メンバーとその役割は、以下の通りである。</p> <p>○株式会社PLOW UNTAPPED HOSTEL（担当／神）：ゲストハウスによるシェルター運営のノウハウを、他のゲストハウスに移転する。生活保護に移行した方に対して、支援付き住宅の供用を開始する。</p> <p>○合同会社ロキ ゲニウス・ロキが旅をした（担当／堀）：株式会社PLOWの技術指導により、シェルター運営を開始する。ソーシャルセクターが多く、地域コミュニティの結びつきが強い土地柄を活かして、独自モデルの構想を目指す。</p> <p>○一般社団法人札幌一時生活支援協議会（担当／小川）：ホームレス状態にある生活困窮者とゲストハウスの橋渡し役を担う。</p>
(2)他団体との連携体制	<p>協議会は、以下の団体からアドバイスをいただくとともに、外部委員会を設置し、事業評価を行う。</p> <p>○NPO法人コミュニティワーク実践研究センター：生活困窮者に対する相談・居住支援を実施している見地から、アドバイスをを行う。</p> <p>○community HUB 江別港：若者と地域を結び、若者支援の場を運営している見地から、アドバイスをを行う。「ゲニウス・ロキが旅をした」と同じく、大麻銀座商店街に所在し、商店主は大麻銀座商店街振興組合専務理事。</p> <p>○江別市社会福祉協議会：ホームレス状態ないし、ホームレス状態に陥りそうな生活困窮者の状況共有を行う。</p>
(3)想定されるリスクと管理体制	<p>コロナウイルス感染症のリスクに関しては、消毒やソーシャル・ディスタンス等を徹底する管理体制を敷き、つながりを忌避し孤立を推し進める方向性ではない、感染症対策を実施する。</p> <p>感染や対人トラブルが発生した場合には、適切な処置をしたのちに、2つのゲストハウスで事業を進めている特徴を活かし、相互に緊急受入をし合うことで、居住確保を継続していく。</p>

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無			
コロナウイルス感染症に係る事業			
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有	<input checked="" type="radio"/> 無	有の場合 その詳細
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無		※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）

(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績
<p>宿泊施設としてのみならず、地域内外の人が交流する場として、これまでに行ったイベントは、「脱力系子育てのススメ（下川町との連携イベント）」「若手林業ビジネスサミット」「映画『ユーラシアを探して』上映会」「札幌国際芸術祭2017アーティストコラガ壁画イベント」他多数。</p> <p>また、申請事業に関連する連携実績としては、2020年5月より一般社団法人札幌一時生活支援協議会が運営する、札幌市ホームレス相談支援センターJOINと連携を図り、随時生活困窮者の受け入れを行ってきた。元々ゲストハウスという宿泊施設であり、共有スペースにその価値を持つ建物の特性を生かし、入居者同士のコミュニケーション、入居者と支援スタッフのコミュニケーションに重きを置いている。これが実を結び、退居後も立ち寄り方が多数いる。ここが一つの心の拠り所となり、その後の生活の支えとなり安心に繋がっている証左であろうと思われる。また、入居者同士も連絡先を交換しているので、社会復帰後の孤立を防ぐつながりをここで育てていることが見受けられる。</p>